



**ヒロセ電機株式会社**

2026年3月期第3四半期 決算説明会

2026年2月4日

## イベント概要

---

[企業名] ヒロセ電機株式会社

[企業 ID] 6806

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2026 年 3 月期第 3 四半期 決算説明会

[決算期] 2025 年度 第 3 四半期

[日程] 2026 年 2 月 4 日

[時間] 10:30 – 11:46  
(合計：76 分、登壇：29 分、質疑応答：47 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 4 名  
代表取締役社長 鎌形 伸 (以下、鎌形)  
取締役 管理本部 本部長 松永 光生 (以下、松永)  
広報・IR 室 室長 山田 理絵 (以下、山田)  
広報・IR 室 清水 秀章 (以下、清水)

## 登壇

---

**山田**：それでは定刻になりましたので、ただ今よりヒロセ電機、決算説明会を開催いたします。

本日はご参加いただき、ありがとうございます。弊社側、社長の鎌形、取締役管理本部長の松永、進行を務めます私、広報・IR室、山田、および清水でございます。今回もオンライン開催になりますが、よろしくお願いいたします。

まず冒頭、本会の説明をさせていただきます。本日の決算説明会資料ですが、ご参加の画面上のリンクからPDFファイルをダウンロードいただき、お手元でご覧ください。同様に先日2月3日に東証にて開示しております決算短信も、リンクがございます。通期業績予想の修正に関するお知らせ等、その他の開示資料については、弊社ウェブサイトのIRページに遷移していただき、ご覧いただけるようになっております。ご説明の際にはページ番号を申し上げますので、ページ送りは各自でお願いいたします。

次に、質疑のところは電話回線より参加者様よりご発言いただき、弊社より回答する対面と同様の双方向での方式を取ってございます。ご質問のある方は、後にもうけてございます質疑応答のお時間の際に、説明会の案内メールにございます、ご質問用の電話接続情報のアクセス番号に電話接続いただけますよう、お願いいたします。受付順にこちらからご案内させていただきますので、順番にご発言いただくようご協力のほどお願い申し上げます。

まず、資料に基づきまして私より26年3月期、第3四半期の決算のご説明を申し上げます。後半の業績予想の修正等については、社長の鎌形よりお伝えさせていただきます。残り時間でご質問をお受けし、その際は鎌形、松永も含め、ご回答申し上げます。閉会は11時30分を予定しております。

---

## 業績サマリー（2025年度 第3四半期累計 2025年4月～12月）

金属材料などの材料コスト増は2Qから引き続き負担となり、利益を圧迫したものの、売上全体は堅調に推移。一般産機市場向けは、22年度の実需超過期を除けば過去ピーク水準まで回復し、計画を上回る進捗。スマートフォン市場向けは軟調だった一方、コンシューマ・モバイル向けは想定通り、自動車・モビリティ関連向けは引き続き堅調に推移した。累計売上は前年同期比+8.4%、営業利益は-5.0%、営業利益率は20.8%。受注は3Q累計で1,617.4億円と前年同期比+11.6%となりました。

(金額：億円)

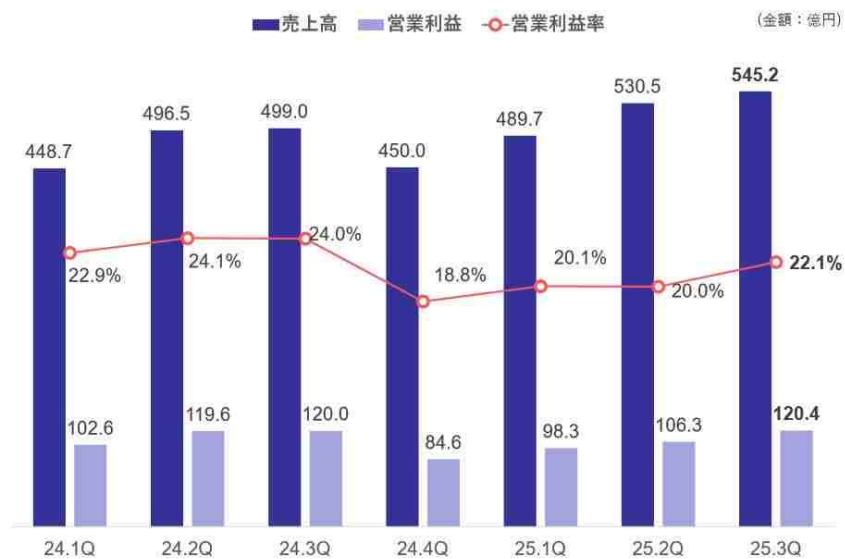
	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期 (24.4-9)	3Q (24.10-12)	累計 (24.4-12)	上期 (25.4-9)	3Q (25.10-12)	累計 (25.4-12)	2025.3Q累計 / 2024.3Q累計
受注	975.9	473.3	<b>1,449.2</b>	1,061.5	555.9	<b>1,617.4</b>	+11.6%
売上	945.2	499.0	<b>1,444.2</b>	1,020.2	545.2	<b>1,565.5</b>	+8.4%
営業利益	222.2	120.0	<b>342.1</b>	204.6	120.4	<b>325.0</b>	-5.0%
営業利益率	23.5%	24.0%	<b>23.7%</b>	20.1%	22.1%	<b>20.8%</b>	-2.9pt

3

資料のほうに移ります。それでは、まず3ページからお願いいたします。業績サマリーです。2025年度第3四半期の結果ですが、全体の売上高は累計で1,565.5億円と、前年同期比でプラス8.4%と増収となりました。一方で、金属材料をはじめとする材料費の上昇が継続しており、利益面では引き続き圧迫要因となっております。その結果、営業利益は累計で325億円、前年同期比ではマイナス5%となりました。営業利益率は20.8%です。

続いて、セグメント別の状況です。一般産機市場向けは、2022年度の実需を上回った特殊要因のあった年度を除きますと、2021年度の過去ピーク水準まで回復し、計画を上回る進捗となりました。一方、スマートフォン市場向けは、季節性を考慮しても控えめな結果となっております。コンシューマ・モバイル向けはおおむね想定どおり、自動車・モビリティ関連向けは引き続き安定的に推移しました。受注は3Qまでの累計で1,617.4億円と、前年同期比でプラス11.6%と好調であります。

## 売上・営業利益推移 (2024年度1Q~2025年度3Q)



© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

続きまして、4ページをご覧ください。四半期ごとの売上、利益の推移を示したグラフです。25年度第3四半期は、売上545.2億、営業利益120.4億、営業利益率は22.1%と第2四半期より良化しております。

## 2025年度 第3四半期 連結決算概要

	2024年度3Q累計 (2024/12月期)	2025年度3Q累計 (2025/12月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)	
<b>売上高</b>	<b>1,444.2</b>	<b>1,565.5</b>	<b>+121.3</b>	<b>+8.4%</b>	
売上原価率	54.4%	57.6%	+3.2		
販売・管理費比率	21.9%	21.5%	-0.4		
<b>営業利益</b>	<b>342.1</b>	<b>325.0</b>	<b>-17.1</b>	<b>-5.0%</b>	
営業利益率	23.7%	20.8%	-2.9		
<b>税引前利益</b>	<b>374.7</b>	<b>352.9</b>	<b>-21.7</b>	<b>-5.8%</b>	
税引前利益率	25.9%	22.5%	-3.4		
<b>当期利益</b>	<b>275.8</b>	<b>248.1</b>	<b>-27.7</b>	<b>-10.0%</b>	
当期利益率	19.1%	15.8%	-3.3		
自己資本比率	<b>89.0%</b>	<b>88.3%</b>			
1株当たり 当期利益	<b>815.25円</b>	<b>738.35円</b>			
			2024年度3Q累計	2025年度3Q累計	
			1US\$	152.57円	<b>148.74円</b>
			1€	164.83円	<b>171.83円</b>
			100ウォン	11.11円	<b>10.55円</b>

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

そして5ページ、決算概要です。2025年度第3四半期累計の売上は先ほどお伝えしたとおり、1,565.5億円、前年同期比プラス8.4%となりました。営業利益は325億円で前年同期比マイナス5%、営業利益率は20.8%。税前利益が352.9億円、当期利益が248.1億円となりました。自己資本比率は88.3%、1株当たり当期利益は738.35円です。為替の実績はドル148.74円、ユーロ171.83円、100ウォン10.55円でした。

## 2025年度 第3四半期 対前年同期主要増減

<b>売上高</b> <b>121.3 億円 増加</b> (1,444.2億円 → 1,565.5億円)	一般産機	: + 99億円
	スマートフォン・携帯端末	: - 21億円
	自動車・モビリティ関連	: + 30億円
	通信インフラ機器	: + 5億円
<b>売上原価率</b> <b>3.2 pt 悪化</b> (54.4% → 57.6%)	変動費率	: 37.8% → 40.7%
	減価償却費率	: 7.7% → 7.7%
	労務費率	: 7.6% → 7.8%
<b>販売・管理費比率</b> <b>0.4 pt 良化</b> (21.9% → 21.5%)		316.4億円 → 336.0億円 (+19.6億円)
<b>金融収益・費用</b> <b>4.6 億円 減少</b> (+32.5億円 → +27.9億円)	為替差損益	: -1.1億円 → +0.2億円
	有価証券評価益の減少	: -5.8億円

続いて6ページに、対前年の主要増減をまとめております。売上高は前年から121.3億円の増加となりました。内訳としては一般産機向けの売上がプラス99億円、スマートフォン・携帯端末向けがマイナス21億円、自動車・モビリティ向けがプラス30億円、通信インフラ機器向けがプラス5億円という結果でした。

その下、売上原価率は昨年の54.4%から3.2ポイント悪化いたしまして、57.6%となりました。主なところでは、変動比率が37.8%から40.7%へ上昇しており、材料費、仕入れ費用の増加が引き続き影響しております。減価償却費率は7.7%で割合としては変化なし、労務費率は7.6%から7.8%とやや上昇いたしました。

販管費は物流費の増加などで19.6億円増加しましたが、売上増の効果もあり、率としては21.5%と若干ながら良化しました。金融収支は、32.5億円から27.9億円と4.6億円の減となりました。

## 2025年度 第3四半期 対前年同期 変動分析

(金額: 億円)

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
<b>2024年度 3Q累計 実績</b>	<b>1,444.2</b>	<b>342.2</b>	<b>23.7%</b>	<b>374.7</b>	<b>25.9%</b>
為替影響	-26.9	-17.0		-16.9	
人件費増		-26.2		-26.2	
減価償却費増		-10.5		-10.5	
物量増他	148.2	36.5		31.8	
<b>変動額計</b>	<b>121.3</b>	<b>-17.2</b>		<b>-21.8</b>	
<b>2025年度 3Q累計 実績</b>	<b>1,565.5</b>	<b>325.0</b>	<b>20.8%</b>	<b>352.9</b>	<b>22.5%</b>

続いて7ページ、お願いいたします。対前年対比、3Q累計の変動分析になります。まず為替の影響ですが、売上ではマイナス26.9億、営業利益ではマイナス17億円でした。人件費増が26.2億円、減価償却費の増加が10.5億円と減益要因となっております。一方で、物量増他で36.5億円の増益効果がありましたが、これらを差し引いた結果、営業利益はマイナス17.2億円の減少という結果でした。

なお、第2四半期と第3四半期の為替を比較すると1ドル6.67円の円安となっており、これがQonQの収益性改善の大きな要因となっております。

## 連結貸借対照表（1）

					(金額：億円)
	科目	2025/3末	2025/12末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	856.7	863.4	+6.7	当期税前利益+248、自己株式買付△150 設備投資(建物等含む)△165 配当支払△165 有価証券・定期預金満期償還 +275
	営業債権及び その他の債権	403.9	501.6	+97.7	売上増加
	棚卸資産	250.9	278.9	+28.0	
	その他金融資産	1,513.7	1,436.8	-76.9	有価証券 +60、定期預金減 △137
	有形固定資産	863.8	908.7	+44.9	生産設備増
	使用権資産	49.4	57.8	+8.4	
	その他	230.2	231.1	+0.9	未取消費税還付
	合計	4,168.7	4,278.3	+109.6	
		現預金合計	1,604.5	1,458.0	-146.5

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

8

続きまして、8 ページが BS 資産の部になります。現金のところは、自己株式の取得や設備投資等による減少も、有価証券の償還や定期預金のその他金融資産からの振替により、全体ではプラス 6.7 億円の微増となっています。また、今期の売上増加に伴い営業債権が増加しており、その結果、資産合計は 4,278.3 億円となりました。

## 連結貸借対照表（2）

					(金額：億円)	
		科目	2025/3末	2025/12末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務		129.0	154.4	+25.4	仕入増による買掛金増 +20
	リース負債		52.0	60.7	+8.7	
	未払法人税		81.4	39.1	-42.3	国内法人税納付
	その他		204.8	247.7	+42.9	繰延税金負債増
	合計		467.2	502.0	+34.8	
純資産	資本金及び 資本剰余金		206.3	207.8	+1.5	
	利益剰余金		3,489.7	3,572.9	+83.2	当期純利益+248、配当金支払 △165
	自己株式		-274.6	-424.5	-149.8	自己株式取得 △150
	その他		280.1	420.1	+140.0	為替換算調整(KRW高,等による) +120
	合計		3,701.5	3,776.3	+74.8	
負債及び純資産合計			4,168.7	4,278.3	+109.6	

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

9

続いて、9 ページは負債と純資産の部です。負債では支払債務が増加しておりますが、仕入れ増による買掛金の増加によるものです。純資産では自己株式が増加しております。こちらは8月に取得を開始し、11月に約150億円の取得を完了したものです。

## 設備投資・償却費 推移(連結ベース)

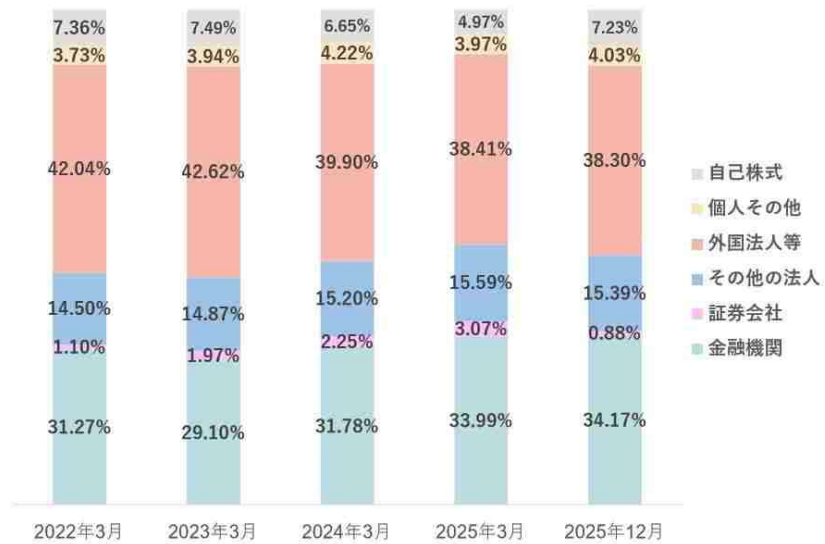


© 2025 HINDI ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

10

続きまして、10ページの設備投資と償却費の推移になります。第3四半期累計の設備投資額は158億円、償却は120億円でした。25年度通期予想については設備投資230億円、償却費165億円としておりいずれも従来予想から変更はありません。なお、資料には記載しておりませんが、3Q累計の研究開発費は99億円という実績でした。2025年度通期の研究開発費予想140億円についても、修正はございません。

## 株式分布推移



© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

11

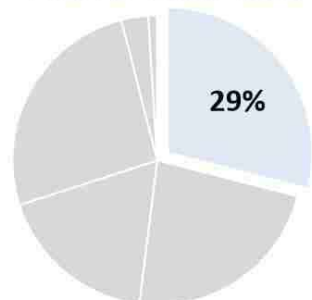
次に 11 ページ、株式分布推移のスライドです。自己株式が 4.97%から 7.23%に上昇しておりますが、これは自己株式の取得によるものです。また、証券会社保有分が減少いたしております。

## 分野別売上 一般産機

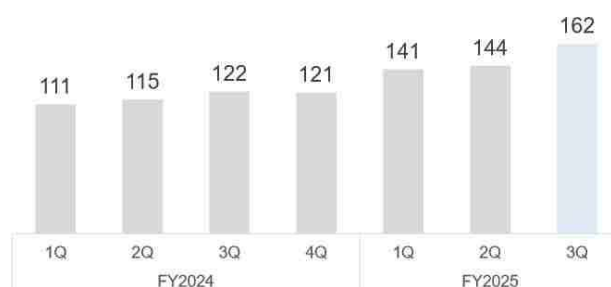
(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	2025.3Q累計 /2024.3Q累計
売上高	226	122	348	285	<b>162</b>	<b>447</b>	+28%

## ● 2025年度 3Q累計 構成比



## ● 四半期別売上推移



## ■ コロナ特需前の21年度水準を上回るまでに回復

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

12

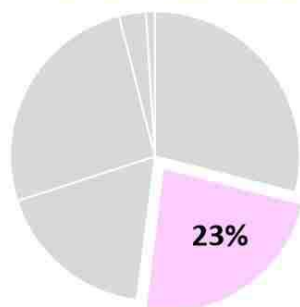
続きまして12ページ、ここから分野別の結果についてご説明いたします。まず、一般産機向けの売上推移です。25年度第3四半期の売上は162億円。累計だと447億円となり、前年同期比ではプラス28%と大きく伸長しました。22年度に部材不足を背景に実需を超える売上を記録いたしましたが、その後、2023年度、2024年度は在庫調整の影響で低迷しておりました。その在庫影響もほぼ解消され、特需前である2021年度の水準を上回るまで回復しております。このことから当分野は在庫調整局面を脱し、改めて成長フェーズに戻ったと捉えております。

## 分野別売上 スマートフォン・携帯端末

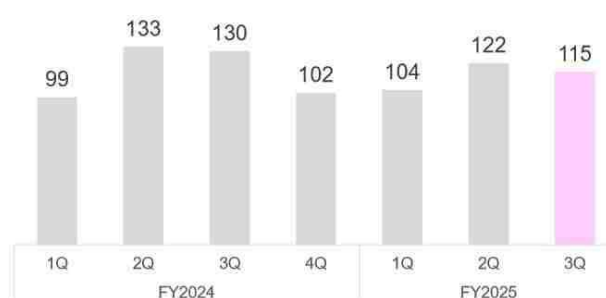
(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	2025.3Q累計 / 2024.3Q累計
売上高	232	130	362	226	<b>115</b>	<b>341</b>	<b>-6%</b>

### ● 2025年度 3Q累計 構成比



### ● 四半期別売上推移



■ 地域別に差があるものの全体としては軟調な結果であった。

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

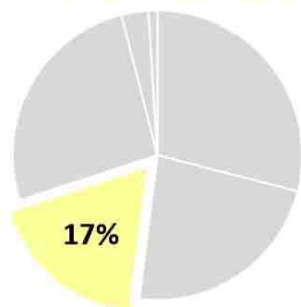
続いて、13 ページはスマートフォン・携帯端末向けになります。第3 四半期の売上は 115 億円となり、季節性もあり 2Q 対比で若干減少となりました。なお地域別に見ますと状況には差がありまして、中国市場は例年より厳しい環境が続いていると言えます。

## 分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

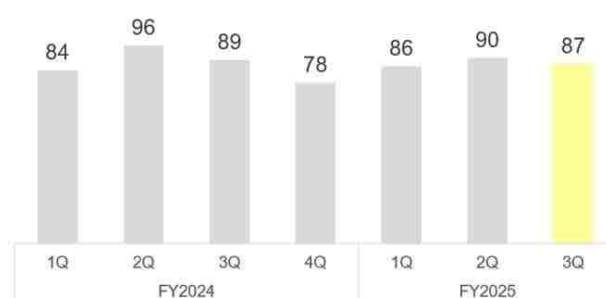
(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	2025.3Q累計 /2024.3Q累計
売上高	180	89	269	176	<b>87</b>	<b>263</b>	<b>-2%</b>

## ● 2025年度 3Q累計 構成比



## ● 四半期別売上推移



## ■ 季節性により2Q対比で減収したものの、基調としては底堅く推移

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

14

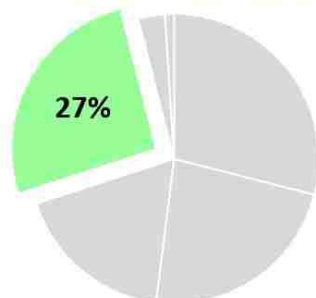
続きまして14ページ、コンシューマ・モバイル機器向けになります。第3四半期は87億円と前年同期比マイナス2%、25年度累計で263億円であります。こちらも季節性のある分野ですので、2Qと比べると売上はやや減少しておりますが、想定の範囲内で底堅く推移していると捉えております。

## 分野別売上 自動車・モビリティ関連

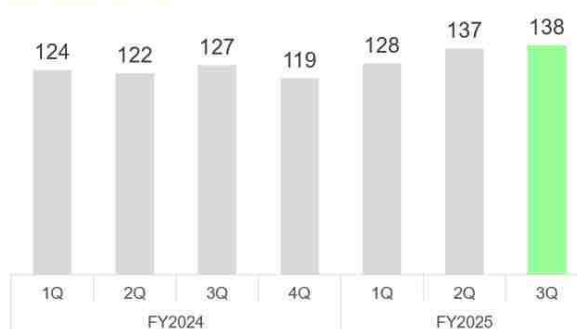
(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	2025.3Q累計 / 2024.3Q累計
売上高	246	127	373	265	<b>138</b>	<b>403</b>	+8%

### ● 2025年度 3Q累計 構成比



### ● 四半期別売上推移



■ 多様な顧客基盤を背景に引き続き堅調に推移。

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

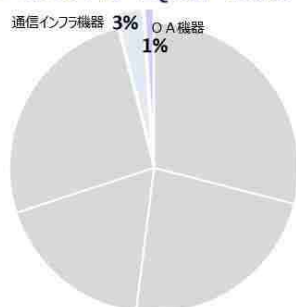
続いて 15 ページ、自動車・モビリティ関連向けです。第 3 四半期は 138 億円で、累計は 403 億円と前年同期比でプラス 8%の成長となっております。多様なアプリケーションへの展開に加え、顧客基盤も着実に拡大していることから、マーケットの短期的な変動の影響を大きく受けることなく堅調に推移しております。

### 分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

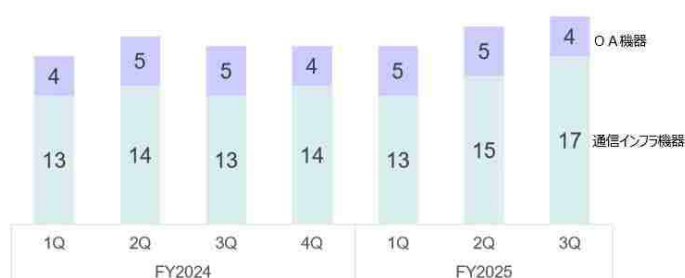
(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	2025.3Q累計 / 2024.3Q累計
通信インフラ機器	27	13	40	28	17	45	+13%
OA機器 (事務機)	9	5	14	10	4	14	±0%

● 2025年度 3Q累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 活況な通信インフラ市場を背景に当社需要も緩やかではあるが拡大

© 2025 HONDA ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

16 ページは、通信インフラ機器向けと事務機器向けの売上実績・推移になります。これまで特段のコメントはしていませんでしたが、足元では微増ながら変化が見られております。AI サーバーをはじめとした通信インフラ市場が活況であることから、当社製品への需要も高まっており、構成比としてはまだ小さいものの、第3四半期累計では45億円、前年同期比でプラス13%となりました。

以上が分野別の実績となります。続きまして、業績の修正を含む残りのスライドは、社長の鎌形よりご説明させていただきます。社長、お願いいたします。

## 2025年度 業績予想（連結）

一般産機向けビジネスが予想を上回る見込みのため2025.11の公表値を修正いたします。

	2024年度 (2025/3月期) 実績		2025年度 (2026/3月期) 予想			第3四半期累計 対前年実績		通期予想 対前年実績		(金額/億円)
	第3四半期 累計	通期	第3四半期 累計 実績	2025.11 公表値	今回修正 公表値	増減額	増減率	増減額	増減率	
売上高	1,444.2	1,894.2	1,565.5	2,000.0	2,050.0	+121.3	+8.4%	+155.8	+8.2%	
売上原価率	54.4%	54.9%	57.6%	56.5%	57.6%					
営業利益	342.1	426.7	325.0	400.0	410.0	-17.1	-5.0%	-16.7	-3.9%	
(%)	23.7%	22.5%	20.8%	20.0%	20.0%					
税前利益	374.7	462.2	352.9	430.0	440.0	-21.7	-5.8%	-22.2	-4.8%	
(%)	25.9%	24.4%	22.5%	21.5%	21.5%					
当期利益	275.8	330.3	248.1	300.0	305.0	-27.7	-10.0%	-25.3	-7.7%	
(%)	19.1%	17.4%	15.8%	15.0%	14.9%					
一株当たり 当期利益		976.33円	738.35円	891.76円	911.47円					
一株当たり配当	245円	490円	245円	490円	490円					
連結配当性向	—	50.2%	—	54.9%	53.8%					
						【為替レート】	2024年度実績	2025年度予想 (今回)		
						1US\$	152.58円	150.00円		
						1€	163.75円	174.00円		
						100ウォン	10.97円	10.50円		

© 2025 HIRSHI ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

17

鎌形：社長の鎌形です。いつも大変お世話になっております。本日はこの業績予想のページから、私のほうで説明をさせていただきます。

17 ページを開いていらっしゃると思いますが、今回、上方修正をさせていただきたいと思っております。中央の赤枠のところ、今回修正の公表値であります。その左が11月に出した、アップデートした公表値であります。

一番上のところ、売上高から申しますと2,000億円を2,050億円と修正いたしました。通期予想としての対前年実績としては、プラス8.2%であります。この2,050億円は現段階での積上げの分としての数字でありまして、少しコンサバめに見ている数字であります。実際は残り数カ月であります。現段階、見積もっていない部分も上がってくるのではないかと認識しております。

その下段、営業利益は400億円を410億円としております。これはOPマージンを20%とキープする前提で置いております。ここはもう少し上げてほしいという意見も社内ではありましたけれども、やはり一つは金価格のさらなる高騰のリスク、3万円を超えていくリスクがまだあると考えておりますので、それが一つ入れてございます。

もう一つは値上げの進捗です。今、ヒロセグループの中では、全社で値上げをプロジェクト化して取り組んでおります。顧客のご理解、特に車載分野、産機分野はご理解のコメントもいただきながら、主に長期販売するであろう足の長い製品、特に古くて金が厚メッキのものを中心として、値上げの交渉をさせていただいております。お客様からはご理解をいただいて、しっかりそこが反映された内容で合意しているものが複数回答をいただいております。

ただしタイミングによりましては、製品によってそれが今4クォーターからしっかりするもの、26年度からしっかりするもの、いろいろございますので、そこはお客様のオーダー次第のところがありますので、ここも少しリスクとして織り込んでございます。

ただ値上げプロジェクト自体は1年で終わる予定はなく、この先第2弾、第3弾と製品を抽出して取り組んでまいります。

ただ民生を中心として、ライフサイクルの短いものは新製品への洗い替えがもともとのヒロセのビジネスモデルですので、新製品への洗い替えでプライスをアップデートしていくことを、しっかりとバランス良くやっていきたいと思っています。ですので、既存品にだけ経営リソースを追加するのではなく、しっかりと新製品を売り込んでいくほうに経営リソースをバランス良くとっていくことが、重要かと考えております。

少しコンサバめの数字ではありますが、足元はトータルでBBレシオ1.12ほどでありますので、2桁で推移しております。そういう意味では、民生の季節性の予測も少し上めできている感じがしておりますし、先ほど山田が申し上げましたとおり、産機は回復というフェーズから再成長に変化しつつあるのではないかと見ておりますが、まだお客様によって濃淡がございますので、ここはしっかりと継続ウォッチしながら、この第4クォーターで26年度以降の経営計画を今、策定中でありまますので、また改めて来期の見通しをヒロセグループがどう見ているかは、ご紹介させていただくことを考えております。

### 分野別 年間売上予想 修正 (概数)

(金額/億円)



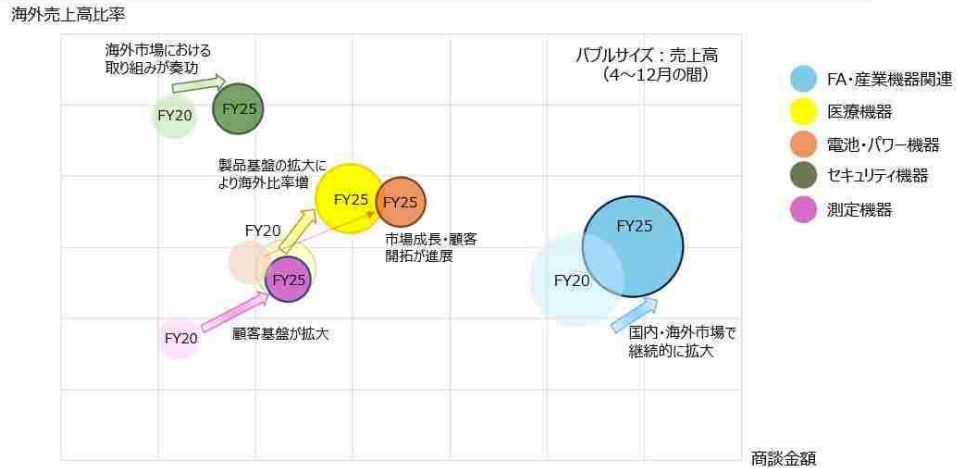
© 2025 HIRONE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

次のページをお願いいたします。18 ページ、上方修正した内容を、分野ごとに少し見直しをさせていただきます。

一般産機は、23%アップから 30%アップに変更させていただきます。これは次ページで少し紹介させていただきます。スマートフォン・携帯のところは安定して数字をキープということであり、コンシューマ・モバイル機器もシーズンリティが予想ほど落ちてきていないことを反映して、マイナス 5%をマイナス 2%に少し変更。自動車・モビリティは堅調に好調をキープ、2桁成長をキープしています。

今回、少し変化が見られております通信インフラについて、これまであまり先の見通しをお伝えしておりませんでしたけれども、今回から少し触れさせていただきます。ここ今回、前年対比 20%で伸びていることをお伝えさせていただきます、これも別のページで少し説明します。

「一般産機」セグメント内の変化（FY20 vs FY25）



「一般産機」セグメントは在庫調整の進展に加え、製品開発・市場開拓の成果により着実に成長。継続的な成長ドライバーとして期待

次のページをお願いします。こちらは少し特殊なページです。バブルチャートですが、これは2020年度とその5年後の2025年を比較したものであります。一般産機を、右の凡例をご覧ください。FA・産業機器関連、医療機器、電池・パワー機器、セキュリティ機器、計測機器と、主に五つの分野について整理したものでございます。

縦軸が海外売上高比率であります。これは主に、顧客基盤が海外に広がっていつているかどうかという軸であります。横軸が商談金額でありますけれども、これは商談金額、もしくは案件が増えていつて、引合い、この先のオポチュニティが多くなってきているかどうかということを見ております。

総じて在庫調整の進展があったことだけではなく、やはり各社の製品開発、市場開拓にうまくヒロセのコネクタがフィットして、着実に成長してきているのではないかと考えています。

ちなみにこのバブルチャート、少し大きさを比較していただくと分かりやすいのではあります、口頭で少し補足させていただきます。この凡例の五つ、上からご紹介しますけれども、FA・産業機器はおおよそ2割程度のアップ。医療機器は7割程度のアップ。電池・パワー、およびセキュリティはそれぞれ5割程度の大きさのアップ。測定機器は4割程度のアップ。

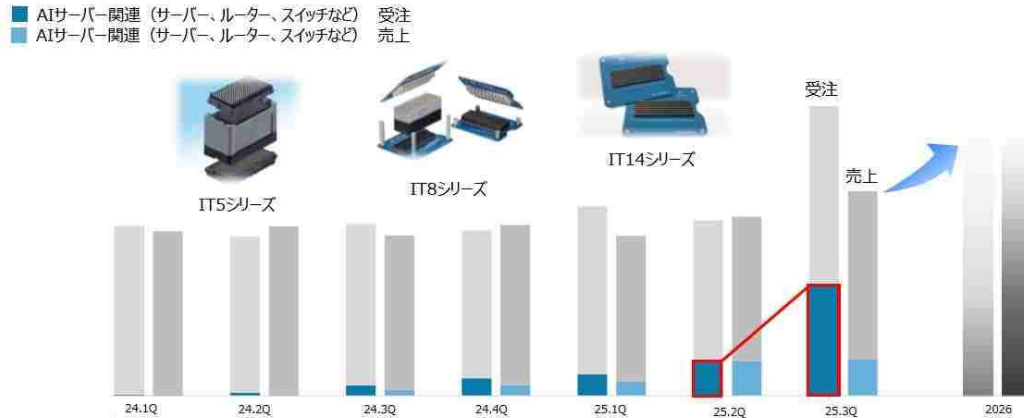
総じて、一般機器はどこが伸びているんだというお考えというよりは、全般的にプラス側にシフトしてきているとヒロセは考えています。ただしお客様によっては濃淡がある状況でございますので、ここはしっかりお客様の動向を確認しながら、お応えしていく必要があると考えています。

この領域は、どちらかというとも過去5年のお話ですので、主に既存製品のアップの領域であります。これまで皆様にはお客様に対してこの分野、ヒロセの製品は採用はしっかりと決定しているが、お客様のオーダーの復活に左右されるんですと説明させていただいたと思いますが、それが復活に合わせてしっかりと、ヒロセの製品が増えてきていることを表しているのではないかと考えています。

かたや、では新製品はどうなっているかといいますと、新製品も2027、2028、2029に向けての協力要請がいろいろときておりまして、強い引合いを感じております。特にロボティクス関係のところは、その引合い、しっかりと応えていく必要があると考えております。

既存製品のところに戻りますけれども、先ほどお客様の濃淡ありと話をさせていただきましたが、ここはそのお客様がそのフィールドでの勝ち組となったのかそうでないのかの濃淡、もしくはAI関連で伸びているか、それ以外のニーズで私どものコネクタに引合いがきているのかというところの濃淡。三つ目はさまざまな半導体等のメモリ不足からきている濃淡なのかというところは今、混在であります。そういう意味ではヒロセグループ、ここは引き続き見きわめが必要というかたちで今、お客様の情報をさらに深く収集するよう活動をしています。

「通信インフラ機器」セグメントにおけるAIサーバー関連 受注・売上推移



AIサーバー関連の受注がFY25.3Qで増加。これまで1倍前後だったセグメントBBレシオが1.4倍にまで拡大。市場成長の追い風を受けつつ、自社の取り組みを加えたさらなる伸長を狙いたい。

© 2025 HIRONE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

次のページをお願いいたします。こちら、通信インフラです。少し動きが見えてきている話をさせていただきましたが、中身をAIサーバーに関連する、しないで整理した棒グラフです。

ちょうど2025年の第3クォーターの数字を見ていただきたいのですが、売上に比較して大きくオーダーが入ってきておりますが、その中でも特にAIサーバー関連のオーダーがぐっと増えてきております。

まず受注全体はBBレシオ1.4倍まで拡大してきておりますので、これがこのまま軌道に乗っていくのか、それとも一過性のものなのかは見きわめないとはいえないと思っておりますが、今のところこの市場、競合他社を含め、お客様の動向から見るとここはさらなる成長を期待できる分野と考えておりますので、私どもの取り組みもこの伸びに合わせて、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

この先の部分は少し濁しておりますが、ここはまさに今、数字をどう捉えるべきかという議論を今、社内ですべてしておりますので、これは次の決算説明会の辺りでご報告できればいいかなと思っております。

## 「東北アドバンス・テクノロジーセンター」機能拡張に向け増築を計画 ～生産設備開発体制を一層強化～



ヒロセ電機株式会社は岩手県盛岡市向中野にて、生産設備の開発拠点として2024年3月より稼働している「東北アドバンス・テクノロジーセンター」について、機能拡張を目的とした増築工事に着手いたします。増築部分の竣工は2027年春を予定しております。



2024年3月：組立設備開発力の強化を目的として建設

制御機器のソフトウェア改良や新規ヘッドの開発により  
ライン生産性が向上、設備製造リードタイムの短縮などの効果

2027年春～：さらなるモノづくり力の強化を狙い  
組立工程に加え、前後工程を含む全工程の  
設備開発力強化および最適化を目指す

生産性改善の取り組みが成果を上げているため、さらなる拡大と発展に向けて追加投資を実施。

© 2025 HIRONO ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

21

次のページをお願いいたします。2024年3月より稼働していた、東北アドバンス・テクノロジーセンター。ここは主に生産機器の制御回りをソフトウェアを用いて、メカとソフト両面で、生産設備の生産性を上げることに取り組んできている部隊が活動しているところであります。

24年からまだ2年経っていない段階ですけれども、ここは生産性の向上が検証でき始めてきておりますので、私どもとしてはここをさらなる効果追求のために、この機能拡張をしたいと考えております。

2027年春、少し先ですけれども、さらなるモノづくりの強化としてこの建物を増床するとともに、ミッションとしてこれまで組立工程をターゲットとしておりましたが、そこに対してさらにその前後工程も含む、全工程に対しての生産性の強化を目指していこうと考えております。ここをしっかりとやっていくことによって、より一層の安定した利益性、もしくは安定した大量な高品質のモノづくりを提供していきたいと思っております。

## 株主還元 自己株式の取得

## 2025年5月発表

2025年度～2028年度の4年間に600億円を上限とした自己株式を取得する方針を決定

- 2025年8月5日～11月14日 取得完了**  
 806,500 株, 150億円
- 2025年12月25日発表 進行中**  
 株主還元充実及び資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策のひとつとして、自己株式の取得を行うものであります。

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	1,000,000 株 (上限) (発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合 3.03%)
株式の取得価額の総額	15,000,000,000円 (上限)
取得する期間	2026年1月5日から2026年7月31日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

© 2025 HIRSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

22

次のページ、お願いいたします。今年度前半で150億円の自己株取得を行いましたけれども、それに追加して自己株式の取得をしております。一部来年度にかかるかもしれませんが、ここは継続、その期間で150億円をやらせていただきたいしております。

以降は Appendix でありますので、私のまず冒頭でのご報告は以上でございます。

**山田**：スライドに沿ったご説明は、以上となります。

## 免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい